**【緊急アンケート！！】聞かせて！仙台の文化芸術とアートノードについて！ 設問・集計一覧**

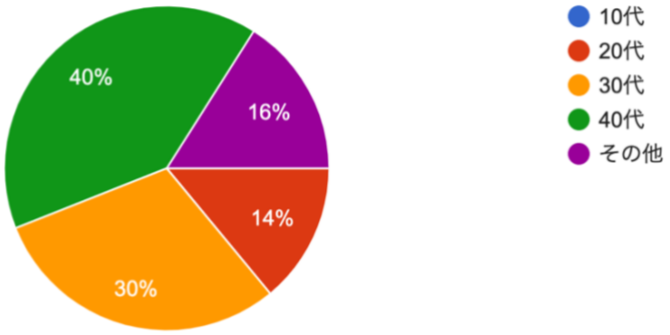
## 1．回答者ご自身についてうかがいます。

Q1　さしつかえなければ、お名前をご回答ください。

Q2　さしつかえなければ、メールアドレスをご回答ください。

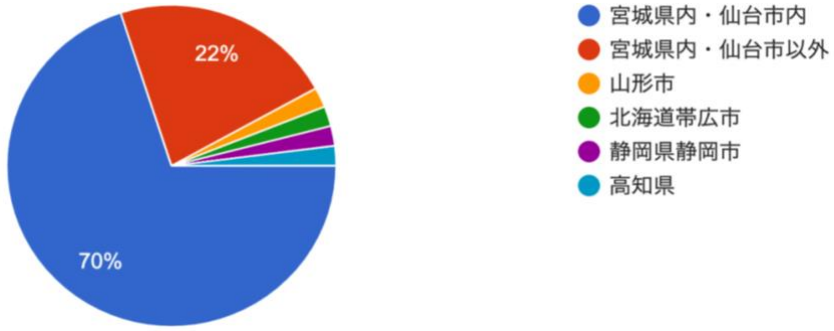
Q3 あなたの年代をご回答ください。

50 件の回答



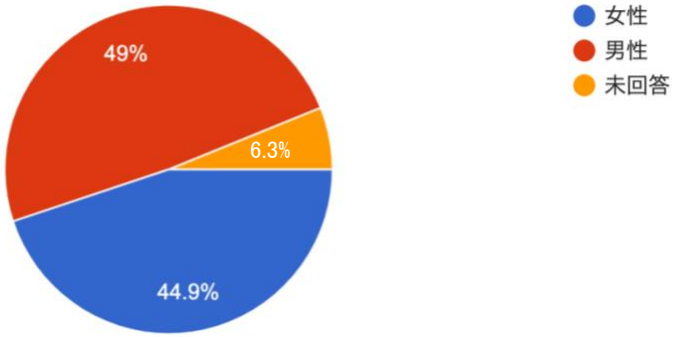

Q４ あなたの居住地をご回答ください。

50 件の回答




Q５ あなたの性別をご回答ください。

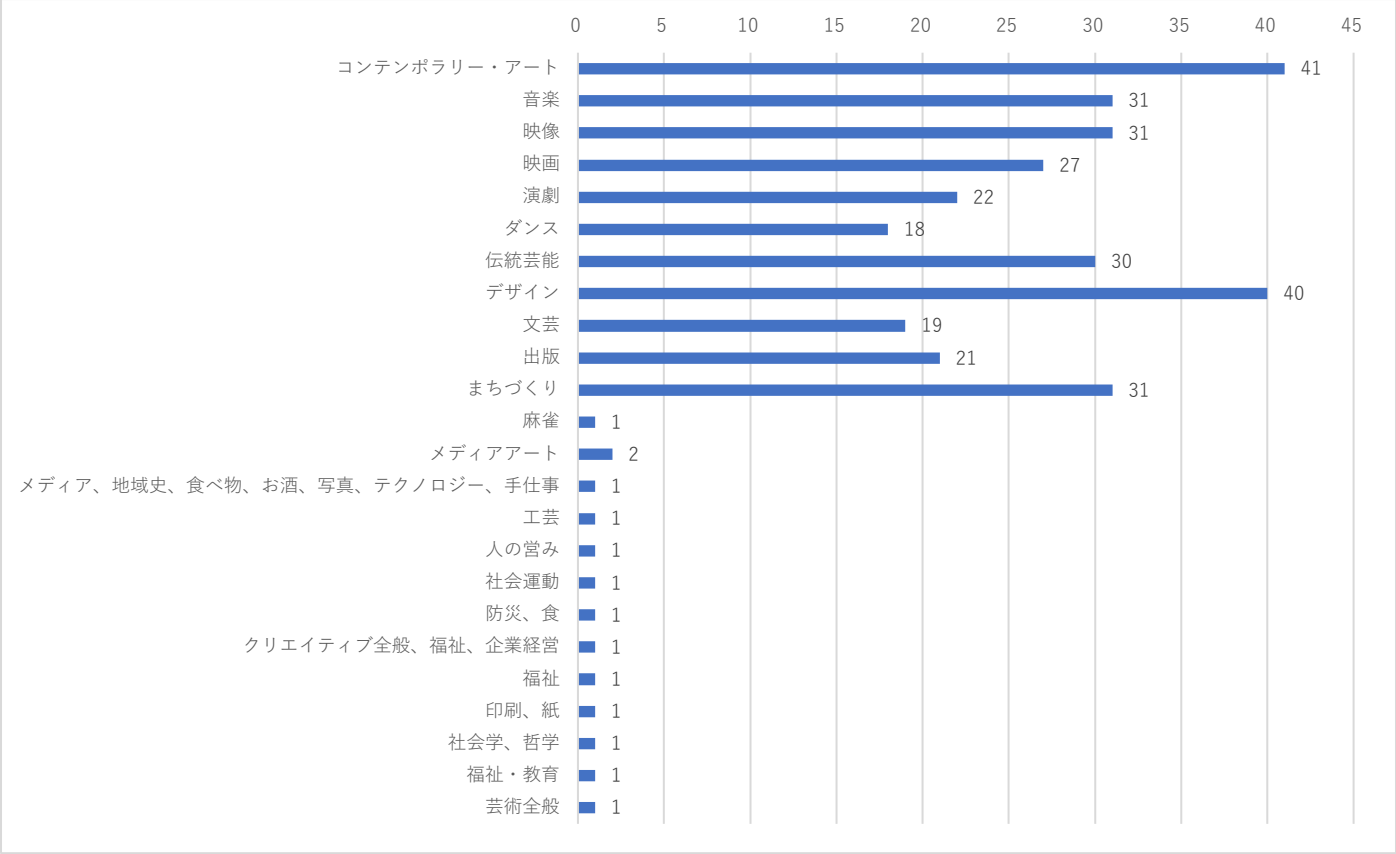
49 件の回答




※省略部分の選択肢名（メディア、地域史、食べ物、お酒、写真、テクノロジー、手仕事/クリエイティブ全般、福祉、企業経営）

## Q６　あなたが関心のあるジャンルをご回答ください。

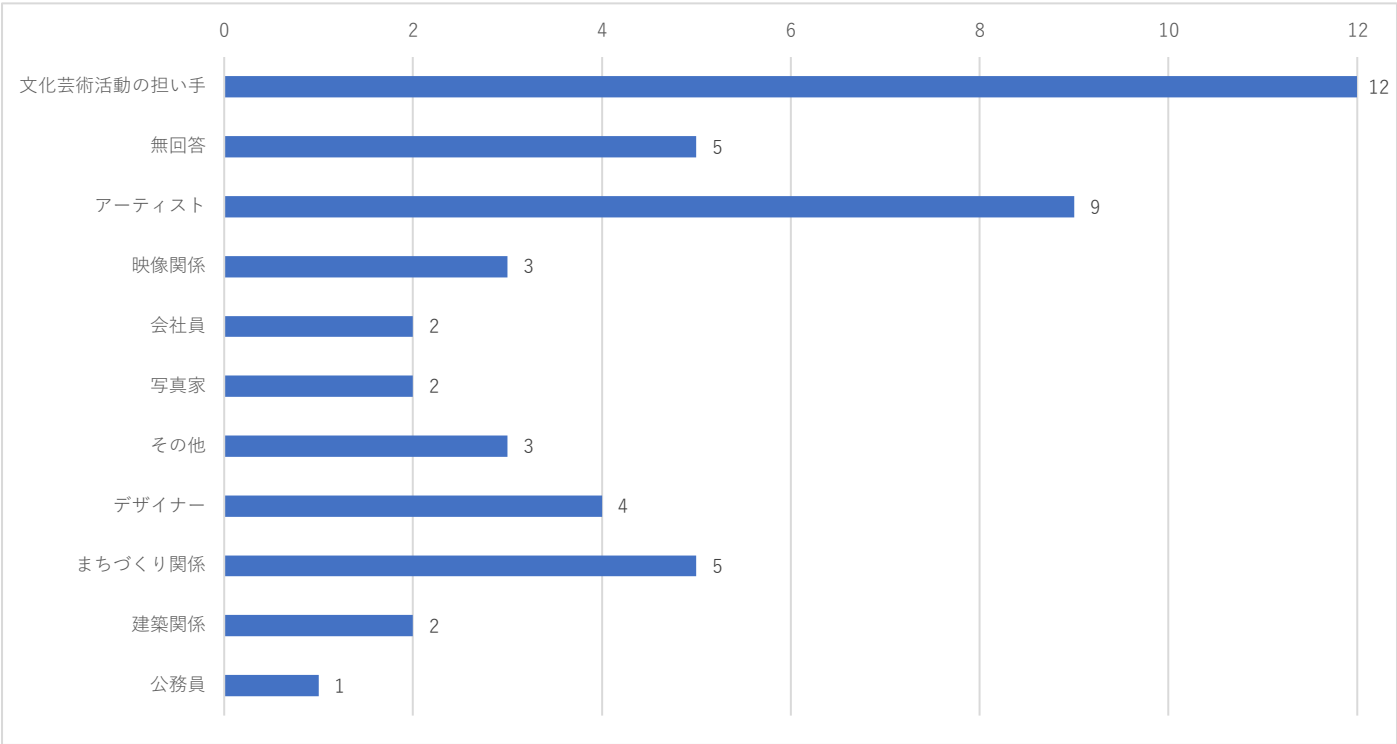
複数回答有




※省略部分の選択肢名（メディア、地域史、食べ物、お酒、写真、テクノロジー、手仕事/クリエイティブ全般、福祉、企業経営）

## Q７　あなたの職業（肩書き）をご回答ください。

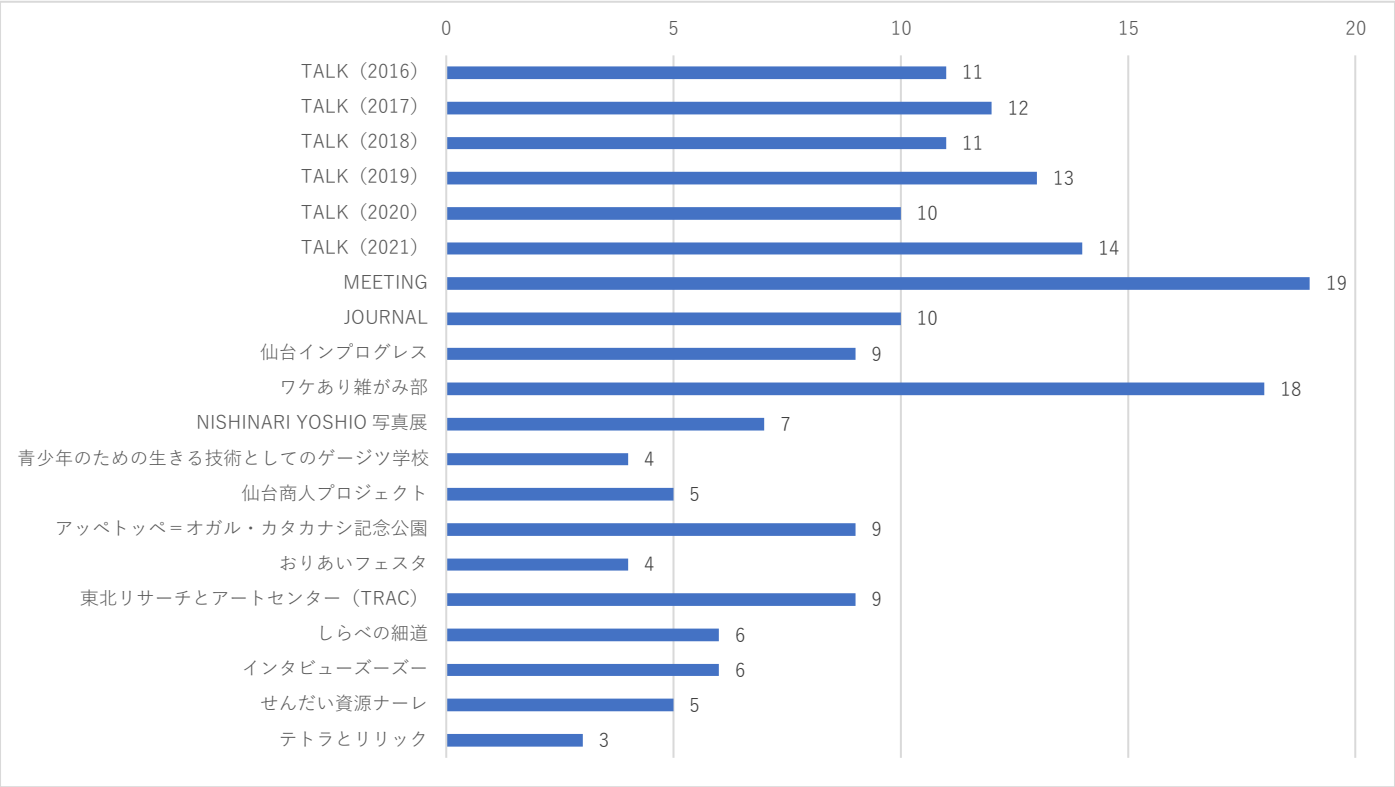
48 件の回答



## 2．回答者とアートノードの関わりについてうかがいます。

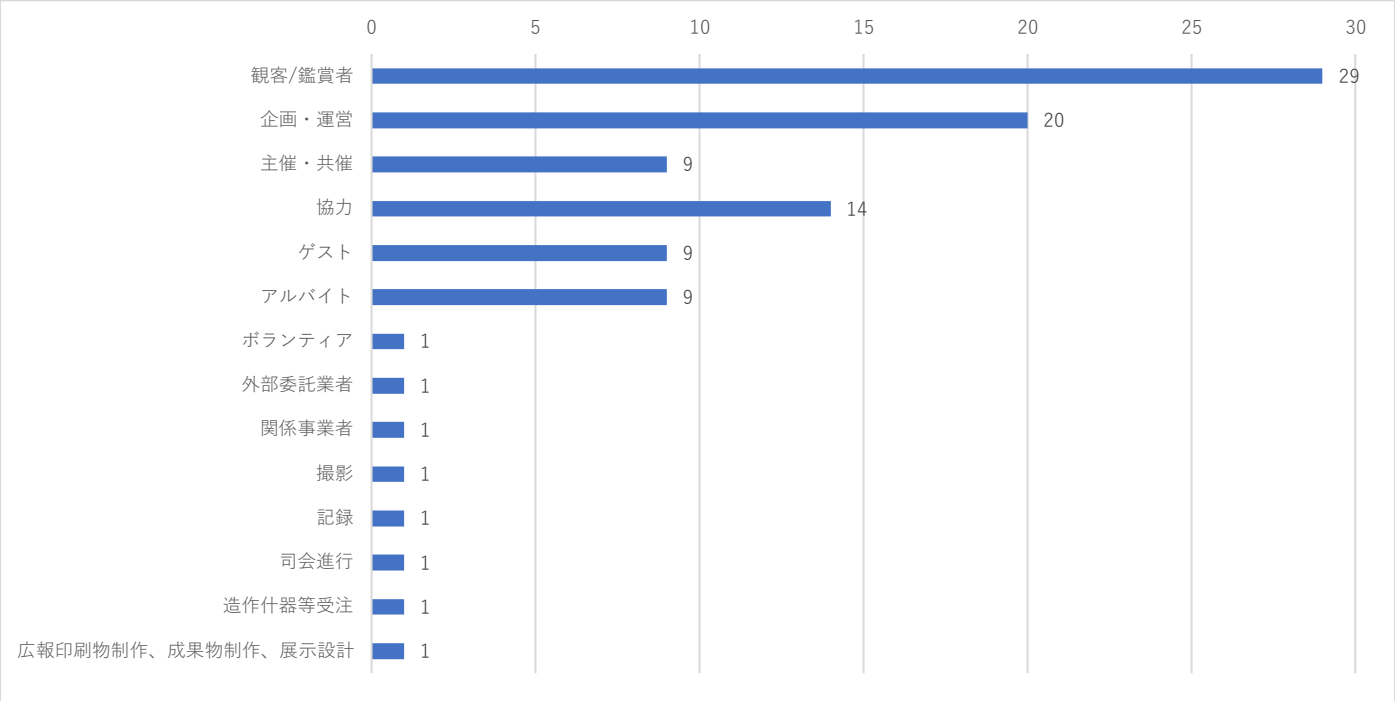
Q８　アートノードの実施事業で、関わったことがあるも全てにチェックを入れてください。

複数回答有




※実施事業一覧は別ページに掲載。

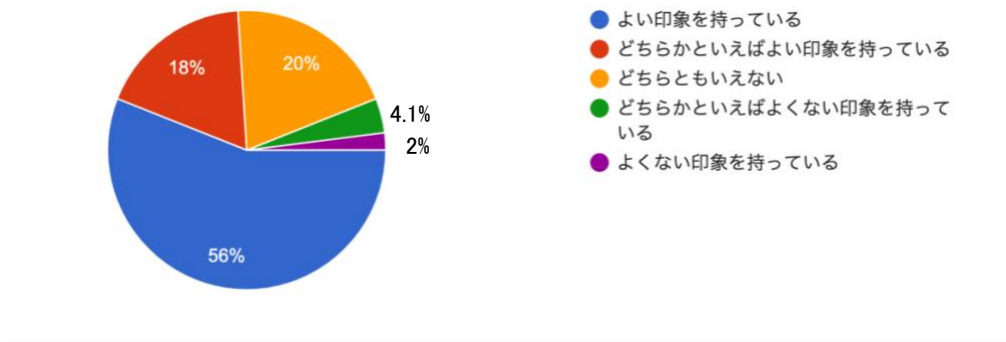
Q９　どのような立場でアートノードに関わりましたか



## 3. アートノードや仙台の文化芸術についてうかがいます。

Q10 アートノードについて、どのような印象を持っていますか？ 一つだけ選んでください。

件の回答




Q11 アートノードのよいと思うところ、よくないと思うところについて、あなたの考えを自由に書いてください。

45 回答 ＊全回答からミーティング当日に話題となった内容を中心にその一部を掲載

・仙台のアートに関わる方々と共に、悩みながらチャレンジする機会を仕事として作ってくれているところがとても良い。

・よい：活動へ参加する上で、専門の美術教育を受けていない人でも関われる”のりしろ”があるという良い意味での敷居の低さ、美術に限定されない領域横断性、身近なくらしとの連続性（当事者意識の醸成）、継続した活動によって仙台ならではの文化活動・表現活動（協働・共創的な）の土壌が作られていること。芸術的価値に縛られない実験的な取り組み。

よくないとは思わないが改めて確認したいこと、率直に感じること：アートノードにおけるアートの定義。社会的包摂における「社会」の範疇が限定的なものに感じてしまう（社会の範囲がディレクターサイドの価値観であらかじめ決められているような気がする時がある。仙台における美術教育の偏り（狭い意味での美術 fine art しか扱っていない）や、宮城県美術館が現代アートや実験的な取り組みが出来ていない状況で、アートノードは重要な役割を担っていると思うが、あまり地元の現代アーティストの掘り起こしが出来ていないような感じがある。構成団体が固定的なため毎回同じような企画やメンツに偏っており、そのことによって、「アート」や「社会」の定義や範疇が固定的・限定的なものになっている気がする。

・私が学生時代に学んできた「アート」と言う概念がとても狭かったことをアートノードで補って頂いていると感じます。 アートノードでは地域の人々や町の豊かさに繋がるような活動や提案を、アートを中心に様々な角度から伝えて下さいます。 私にとっては刺激と学びの場で、普段の暮らしの視野が広がり、物事を多様に考えられるようになった機会となっておりますので、とても有難い場となっております。ありがとうございます。

・あらゆる表現を対象としていて、どんな表現も否定（評価）しないところが良いと感じる。一方で、何を成果とするかが難しい事業だと思う。また、アートという専門性の高い対象を幅広く扱うため、数年でスタッフの異動があるのは大変だと思う。スタッフの皆さんが無理なく力を発揮できる労働環境であることが、よりよいアートノードの運営に繋がると考える。

・メディアテーク職員同士の連携がない。（担当者以外興味がないというかそもそも知らないのではと感じる）

・担当者の興味のあるないがわかりやすく関わり方に偏りを感じる。熱が違う。

・メディアテーク内でスタッフを見かけることが少なすぎる。

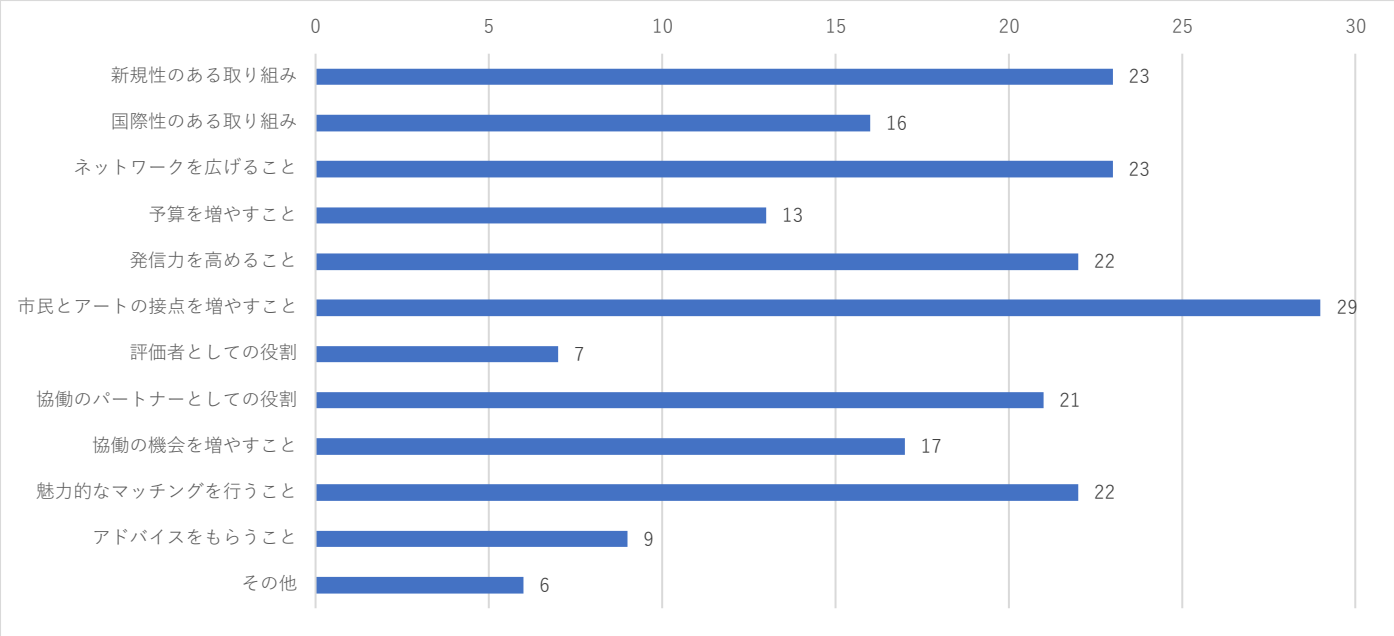
・アートノードにとって作品やイベントが結実点ではなく、接合点であることを事業名で示し、プロジェクトが社会に対する媒介として位置付けられていることが、アートの社会的役割をつくるという意味で重要だなとあらためて感じます。ただ、そのアウトプットや成果を届けることの難しさも感じます。

・８年間の企画を追えていないのでよくわからないというのが正直なところですが、せんだいメディアテークのコンセプトブックから結節点（ノード）という部分を抽出して、メディアテークという建築物に頼らずに自ら触手を伸ばしていく活動に転じた部分はとても良い着眼だったと思います。 アートなどの活動が仙台という場に結びつくことで市民からの活動がもっと立ち上がってくるのかと思っていましたが、結果的に見えてきているものは従来のアーティストやアートサーキット主導のアートのアイコンやシグネチャー（謹製的な）の延長線上のアートプロジェクトと何が違うの？という事は感じます。

・全てではないと思うが、少し地味で専門的すぎなイベントという印象を持っていました。それが広報物のせいなのか、扱うプログラムのせいなのかはわかりませんが、それぞれに対してコアなファンがアクセスしてくるという印象。なので、参加者としては中身の濃いプログラムに参加できることは良いと思う部分です。
・多様なジャンルのテーマに渡って開催されているが、少し敷居が高いと感じることもある。
・よいと思うところ アートという括りでありながら、幅広い文化や芸術にまつわるものであり、様々な人の興味関心を受け止め、サポートし、広げてくださるような、非常におおらかなプロジェクトであること よくないと思うところ よくないとは思っていないのですが、敷居が少々高く、「気にはなるけど私には程遠いものだ」と捉えられてしまう側面があると感じている(私個人の感覚です)
・どこを見て(向いて)活動しているのかが今ひとつぼやけている気がします。
・館で行われる企画についてだけでなく、仙台圏におけるアートを広く扱っている点。
・メディアテークが施設の外に出て積極的に地域や市民との接点をつくられていることはとても重要な役割だと思います。
・仙台という土地を活かしたプロジェクトでありながら、他地域でも発展できそうな先駆的な取り組みを行なっている印象があります。また、一時的な活動ではなく、継続的な取り組みも多くあることが、他地域で活動するものにとっても心の支えになっています。
・単発のイベントだけで終わらせない考え方は共感するが、アートノードという枠組みや方針が、関係者以外の市民に認知されているのかという疑問がある(アンケートの選択肢で存在を知ったプロジェクトもあった)。市民が主体となる場面はとても重要と思うが、その場合の主催者とメディアテークの役割や関係性が不明確だと、取り組みの蓄積や深度を深めたり、次の展開や発展に繋がらないのでないかと思う。そうした場合、(中には継続的に行われているプロジェクトものもあると思うが、)結果的に小さな単発のイベントがこなされていくだけということになり、様々な結節点が繋がっていくようなプロジェクトになり得るのか？という疑問がある。
・理念等はとても共感しております。ただこのアンケートを書こうとしたときに思うこととして、批判的な意見はアートノードに対してではなく、仙台市の文化芸術、政策に関してのことではないかと思っております。アートノード＝せんだいメディアテーク＝仙台市ではないということだと思いますが、私の知っている限り仙台市やせんだいメディアテークへの直接的な窓口がないこともなどもあるのかと思いますので、期待することとすれば、アートノードが仙台市の文化事業の窓口になること。市民の意見や仙台で文化芸術活動しているかたと仙台市との繋ぐ役になること、仙台市が短期的、長期的にどのような政策があるのかなど、年度初めなどに、市民に説明会などを開催してもらえたらと思います。

## Q12　アートノードにどのようなことを期待していますか？

複数回答有




その他の部分の回答（/仙台市はもちろん仙台市外での活動の提案/市民活動に対するキュレーション/仙台に留まるのであれば特に期待はありません/ネットワークを広げるというよりは、あるものを見える化したり太くしたり、有機的に組み合わせていくこと。コーディネータとしての幹の仕事をしっかりやっていただきたい。）

## Q13　その理由についてお聞かせください。

43 回答　＊全回答からミーティング当日に話題となった内容を中心にその一部を掲載

・大きな芸術祭やアートプロジェクトにおいて、実施内容を除いて（個別によって違うため）良いなぁと思う点は、その地域にアート関係の生業に繋がり、アーティスト等が住みやすい環境になるということだ。アートノードが大きなプロジェクトになって欲しいとは思わないが（小さいことで生まれる良さが個人的には好き）、少なくとも上記の役割を持っているとは感じている

・年配者ばかりになって来ました。以前からですが、より若者がいないなぁという印象があります。

・市民の文化的体験が限られたものになっていて、アート活動を通して異質なものと出会ったり、自分自身の中に何かを発見したり、自身の存在を肯定したりするような機会が少ないまちだと感じるから。

・アートやモノづくりに触れる機会が増えることによって、一般の人達のクリエイティブへの理解や価値観が造成されることが、自分たちの仕事の価値を高める一つの道筋になると考えているから。

・今後も市民がアートに触れる機会や、繋がりを持つ場を作っていただきたいからです。

・仙台にプレイヤーを増やすこと、仙台で何かをしたいと思う外の人たちを連れてこられる魅力を持ち続けることを望みたい。

・住民が自ら企画をすることも多くなっている中で、企画を実現するための相談機能を持つなども面白いかもしれません。（仙台でどのくらいの需要があるのかわかりかねるのですが）メディアテークスタッフや、関係専門家が相談に乗ってくれる文化事業道場？みたいな…？学生も多い都市だと思うので、そういう若手世代が自ら企画をするときに、その内容を高めたり、専門家と一部でも関わることでより広がることがあると思いました。

・個々人の活動では得られないプラットホーム的役割を期待しています。なので、新規性、出会い、ネットワーク、マッチングなどを選びました。

・東北のゲートウェイとしての仙台の街のイメージとして、国際性、先駆性は欠かせないと思いますので、そういったイメージのプロジェクトであればと思います。また、内外の文化芸術団体をつなぐ役割も期待したいからです。

・仙台や東北で、何か新しいことを深く遠くに向けて始めるときのツッコミや伴走の役割に大いに助けていただいていますし、今後もとても期待したいです。

・もっと多くのさらに幅広い、文化に興味関心のある市民の人とつながりを持てるとなお良いのかなと思う。

・直接担当されるスタッフともっと関係性を深め、連携できればよかったなと思います。こちらの希望を聞いていただくだけでなく、担当の方がどんな考えをお持ちかディスカッションできたら、企画の内容もより魅力的になったのではないかと（今更ですが）感じます。資源や人材がないのではなくて、その扱い方の問題なのかなと思います。

・日常的に感じるまちづくりの課題の一つは、それに関わる方々のアートの視点が不足、欠如していることです。表面的なきれいさやかっこよさ、経済性も時に必要かもしれませんが、もう一つの視点として社会性からまちづくりについて考え行動する人がもっと必要な気がします。その点ですでにアートへの関心の高い層へのアプローチではなく、関心が低いあるいは無関心層へ向けたアプローチを期待しています。

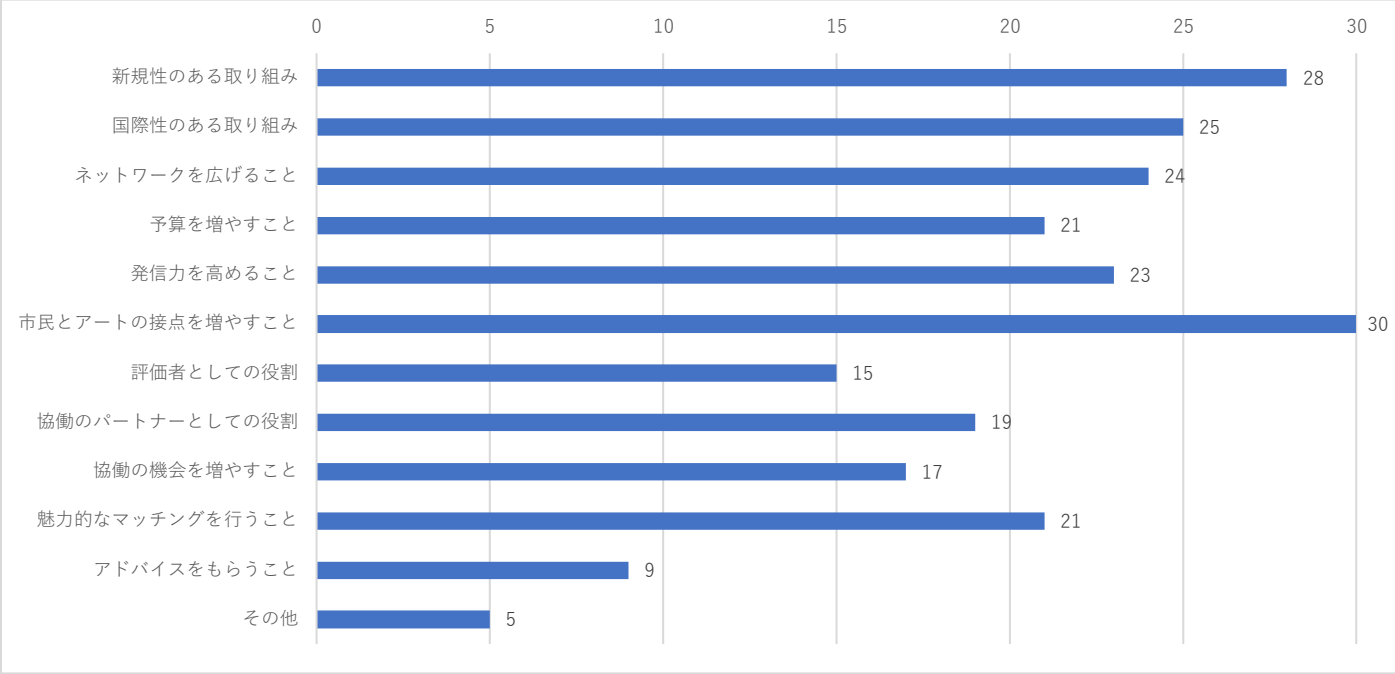
・アートノード発で新規性のある取り組みというよりかは、もうすでに仙台で活動している人々は存在しているという前提で、ではいかにその点在しているノードを見つけるか、繋げるかっていうのを主目的に活動しても良いのではないかと思う。 今のトークシリーズでは、それぞれの活動の紹介をそれぞれが独立してやっているが、次はじゃあその人たち同士をどうマッチングさせたり、協働の機会を増やしていくのか。その部分をサポートしてもらえるならメチャ嬉しいです。

・魅力のある機関になって欲しい。淡々とそつなくこなすのではなく、ビジョンや批評性を持ち、文化芸術を仙台に関係なく全国へ発信をする立場になって欲しい。

・行政などとの窓口的役割を期待しております。

## Q14　せんだいメディアテークにどのようなことを期待していますか？

複数回答有




その他の部分の回答（非正規の期限付きスタッフを使い回すことをやめてもらいたい。/市民とアートの接点よりも、市民とスタッフの接点を増やしてほしい。/ジェンダー、格差などの社会課題や政治的なことに文化の面からアプローチを探ってほしい/顔となる魅力的なスタッフを育成し、市民と向き合っていただくこと/外部から適切な評価を受けること、内部での連携をすること）

## Q15　その理由についてお聞かせください。

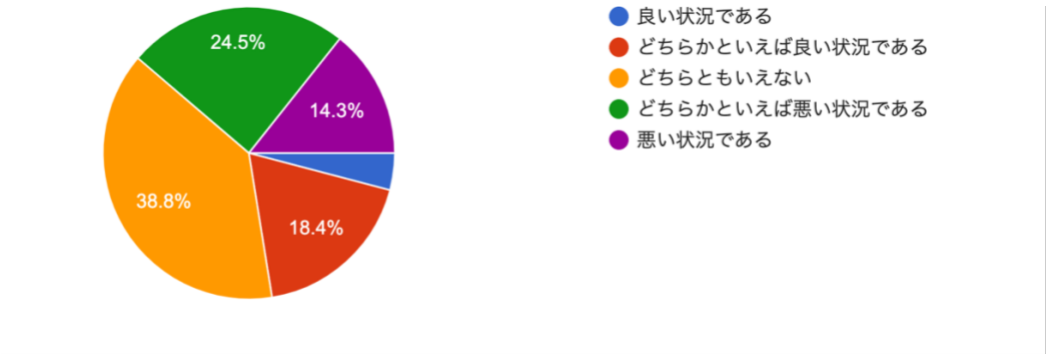
45 回答　＊全回答からミーティング当日に話題となった内容を中心にその一部を掲載

・他の地域から、仙台の文化芸術のあり方を提示する場として注目をされているから。最新のものや現在進行形（価値がまだ定まらない）のアートを扱える場所であって欲しいから。「市民」を対象としているが、その市民は、ある程度のモラルや教養を持っている人、もしくは包摂されるべき対象であると施設側に認められた市民に限定されているように感じることがある。その「市民」の範疇外の「個人」は全く相手にされない（見えていない）ような疎外感を感じる。「多様性」や「開かれた場」であるはずが、「多様性」や「開かれた場」へのイメージが固定化されており、「開かれているようで実際は閉じている」ような感じがする。

・用がないと行かない場所になっている。行く度に新しい出会いがあったり、だれかと創造し合ったり、何かが起こる現場に立ち会ってしまったり・・・、そんな場を期待しています。
・ノードであり、かつ、公の施設だからこそできる役割があるから。
・メディアテークという大きな専門組織としてできることをやって欲しいから。
・仙台のアートシーンに対して、個人的な意見ですが薄い印象があります。また、仙台のアートシーンがつまらないとの声が耳に入ることも多いため、今後、よりシーンが深く濃くなっていくことを期待しているためです。
・もっと平易に社会的意義を発信したほうが良いと思います。
・仙台市内のアートの拠点だと思うので、継続的な部分と新規の試み両方を期待します。
・蓄積した知見、文化芸術に対しての多様な実践能力、人的パワーを仙台のより一層の文化芸術発展に活かして欲しい。
・ゆるい繋がりをもたらす場が必要だと思うから。
・他分野と連携したプログラムは、テーマが横断的であるがゆえに成果の受け手のターゲッティングが難しかったり、取り組んだことがマニアックになりすぎたりして、しっかりと評価されずらいことがありますが、協働の相手側の分野での期待感が高まるとよいと思うため。
・災害につよいメディアテークの立地と、先の見えない時代との節点であることは、仙台・東北にとって重要と思います。　10年前に沿岸部の一住民として記録した復興途中の営みは、その後の風水害や地震により、今やメディアテークでしか観られないものとなりました。案外すぐに失われてしまうものを残していくことに、役に立つことを実感し期待しています。　私たちの儚い営みを、将来のいつかの誰かに魅力的にマッチングし続けるために、必要な評価や資金が集まる場であって欲しいと切に思います。
・予算の少なさを感じる。 オープンスクエアでイベントがない時の空間が勿体無いでので、予約イベントがない時用の展示なのか情報発信のコンテンツがあるとより賑わいをだせると感じる。
・せんだいメディアテークの事業と聞くと、プロジェクトやイベントへの信頼(安心)があるので、それを持って全国・海外へとさらに発信力を高めてもらえたら素晴らしいと考える。
・ネットワークについて。自戒を込めてなのですが、一定の場所、立場、属性で働き街を観ていると「知ったつもり」になりやすい。しかし仙台は流出入人口が多く、たえず変化している街です。自分が知らないだけで、異分野の情報やネットワークが更新されていることを念頭に置いて（それに追随する必要はないけれど)、ユニークな出来事、人、場所に注目していきたい。
・メディアテークの様々な企画を見ていると、関わるアーティスト、スタッフが毎回同じ人ばかりであるという印象がある。これでは仙台の文化芸術に関わっている人ではなく、メディアテークと接点のある人達だけで行われる事業ばかりで流動性がなく新規性が生まれない。　メディアテークは市民によるメディアを通じた活動のハブになるというビジョンを持っているのに、そのスタジオの利用のための参加者登録の案内があまり積極的ではなく、古くから登録しているメンバーのみが利用している印象。またそのフレームを提唱するメディアテークのみが評価され、利用者が限定的な状況は非対称的。個人によるメディア発信が一般的になりつつある昨今、メディアテークを利用するメリットを提供したり、プロフェッショナルによる講座などをし、新規参入者を増やし本来のビジョンを実行することで税金を市民に還元することが望まれるだろう。
・企画展示の数が少ないことが残念です。 少ない予算でも面白い展示はできると思うので、若いキュレーターや作家を交えての実験的な展示が数多く見られることをのぞみます。 メディアテークの色はあるかと思いますが、企画される展覧会の出品作家に偏りがあるのも気になります。仙台に住む多くの作家が毎回メディアテークに足を運びたくなるような、より魅力的な場所になってほしいと思います。一つ感じるのは、「東北」「仙台」から離れ、広い視野を持った企画があってもいいのではないかと思います。テーマが東北に関係したことでなくても、また出展が東北出身の作家でなくても、東北の人に響く展覧会はあると思います。 ”市民を育てる”方法は様々にあると思いますが、単純に「いい展覧会」を鑑賞することが芸術文化に対する理解を育むのではないかと感じます。

## Q16　仙台の文化芸術の現状をどのように捉えていますか？

49 件の回答




## Q17　その理由についてお聞かせください。

45 回答　＊全回答からミーティング当日に話題となった内容を中心にその一部を掲載

・市民に対する文化芸術の普及や、文化芸術を通した社会的包摂を実践している点で、メディアテークの功績は大きいと思う。しかし宮城県美術館や、学校での美術教育、オルタナティブなアートスペースが貧弱なため、仙台における文化芸術・アートの多様性が乏しいように感じる（自分のリサーチ不足かもしれないが）。その影響なのかは分からないが、宮城県や仙台市といった行政からも、「メディアテーク的な表現」でなければ仙台では文化芸術・アートとして価値が認められないような状況にあると感じる。東日本大震災によって文化芸術活動の意味が再確認されたという、宮城・仙台ならではの文化環境の醸成というのも要因かもしれないので、ひとえにそのことが悪いこととは思わないが、東京や関西に行かなければ現代アートやメディアアートに触れられないのは残念だなとも思う。

・文化芸術活動と、人々の暮らしや人生の接点となるような場がない。仙台で芸術と言えば、チケットを購入して見聞きする消費行動に限られてしまっているような感覚さえある。市民が集い、創造し、感動し、希望を抱き、共に生きる絆を育むような文化芸術の場が少なすぎる。社会の分母である地域の文化が弱っている。自らが生きている足下に息づいている文化を見いだし、みんなで磨き、新しい土台を生きる力にしていくような地域に根ざした新しい活動を継続することで、自己肯定感やシビックプライドも育まれていく。これは、未来を拓く仙台の可能性を拡大することに直結する、何よりも強い力になるはず。

・それぞれの興味関心を超えた横のつながりが、また世代間の交流も少なくなっている。人材や場所の流動的な変化がなくなって固定化し、先が見えてしまうような閉塞感があります。

・芸術に関して、地方アートシーンとしての独自性や多様性に欠けているように感じられることや、文化の質を上げる取り組みよりもマーケット目線でのアプローチが多い点が多く見られるため

・忙しい中で「時間を割いてまで行こう」と思える現場が少ない。

・色々情報を入れれば楽しいことをやっているが、まちにアートが溢れている感じではない…という印象です。

・自分自身があまり知る機会がないため。そういう意味で情報の窓口になってくれているのでありがたいです。

・多くの人口を抱える仙台市は地方中核都市としての役割も多様で、文化芸術分野についてもすべてにバランス良く深く関わることは極めて難しい。さらなる文化芸術の進展には全体を把握する機関・その人材や、文化芸術創造の担い手の集積や誕生が前提であり、そのためには芸術系の大学創設や音楽ホールのみならず仙台市独自の美術館構想など未来志向の行動が望まれる。

・文化芸術に限らないと思うし今更でもあるが、新しいことが生まれにくく、市民も動かす側も地元に関心が薄い。愚痴が多い。

・東北の諸都市においては、多彩な取り組みをしていますが、特徴が見えずらい、目的がわかりにくいという印象があります。

・制作する側も、鑑賞する側も生活に余裕がない。また、仙台に評論が無いことではないかと思います。

・仙台には多様な活動が数多くあると思いますし、それぞれ伝統があったり新規性があったりすると思いますが、それらがほとんど commons へのベクトルが開けず、限られた仲間やステークホルダーに閉じてしまうという地域特性があると察している。

・問題意識を持っている人が沢山いるため、個人の損得勘定的判断をやめて活動（捨て身の覚悟、自分が捨て石になる覚悟を持って）する人が増えればさらに良くなると思う。　逆説的には問題意識はあるが文字通りの必死で問題に取り組んでいないのかもしれない。

・一部においては非常に深い文化芸術の文化があると感じており、そこだけを見れば全国的にも素晴らしいのではないかとは思うが、もっと広い範囲で現状を捉えてみると、決してそうとは言い難いと思う（簡単な言葉で言い換えると、狭い範囲ではコアな深い文化が醸成されていて、仙台の文化芸術がごく一部の人々だけのもののように思えてしまう）
・個人的に「おもしろい」と感じる企画がまだまだ少ない印象。多様性があればより豊かなまちになる。
・精力的に活動している人たちも各分野存在してるし、すごいなぁと思う人たちもいるけど、ジャンルが変わると全く互いを知らないという印象。無理して繋がる必要もないが、結構近しいことしてるのに話したことないし、そもそも互いの事知らないっていう事が多発していると思う。
フワッとした表現になってしまうが、独立した点だけがいっぱいあって、文化芸術って大きなジャンルで見た時に"層"になってると感じられない。
・宮城県に芸大や音大がないことにより、専門の教育を受けたアーティストが集まりにくい環境であることは仕方がない。近年は専門的教育を受けたアーティストが移住するなどして、仙台でも専門的な取り組みの一片を見ることができるようにはなってきた印象ではある。しかし、メディアテークを含む文化芸術で行われる事業が、社会との接点を持つ美術活動に偏っており、それが政治的な意図を持つものではなく生涯学習的であるため、ハイアートを提供する土壌が育たない。　1990 年代からソーシャル・エンゲージド・アートのような、社会と接点を持つ美術の潮流が評価されはじめ、2001 年に開館したメディアテークもその流れを踏まえた上でのビジョンを提示しているだろう。ソーシャル・エンゲージド・アートは、アーティストのプロジェクトのために参加者が利用されていると批判されることがあり、それと同じことが仙台の文化芸術でも起こっているように見える。プロジェクトは企画者やアーティストが助成金による収益と実績を得るが、参加者の見返りは参加の思い出で終わりやすい。
・仙台は地価が高く、作家が長く制作したりスペースを持つには難しい土地だと感じます。しかし芸術にたいする助成金は年々少なく、扱いづらいものになっています。また仙台は現代美術を鑑賞する場所があまりに少ないと感じます。作家や思想家は多く活気があると感じますが、見せる場所が限定されてしまっていると感じます。
・仙台市で文化芸術に携わっている方たちの顔が見えない。どこにどう働きかけて良いのか分からない。

## Q18　仙台の文化芸術の状況をよりよくするためには、何が必要だと思いますか？　あなたの考えを自由に書いてください。

48 回答　＊全回答からミーティング当日に話題となった内容を中心にその一部を掲載

・つながり。 宮城には面白い作家がたくさんいるのでその方たちに光が当たってほしい。 風通しの良い情報発信など。
・アーティストが住みやすい街づくり。アーティストは旅人のような存在だと思っているので、どこにでも移動できる強みがある。そのアーティストが住みたいと思えて、安心して住み続けられる街かどうかが、１つの指標になると感じているため。
・個々の活動は活動で大切にしつつ、しかし発信力などに限界はあるかと思いますので、メディアテークなど大きな施設にご協力頂きながら、地域の人々が自然と巻き込まれるようなイベントなのか、活動が出来たらと思っております。一人で考えるのは限界があるので、色んな方々と意見交換が出来る場があると良いなと感じます。
・１に循環、次に新しきを担う人材、そしてそれに伴う予算でしょうか。
・多様な立場・世代の人が、文化芸術活動を通して交流できる場を、文化施設だけではなく福祉、医療、子育て、教育、観光などの様々な現場で創り出していくことが必要だと思います。文化は社会の分母ですから、地域社会の中に文化芸術活動がどんどん入っていくような取り組みは必須です。
・美術大学の誘致による美術教育が必要だと考えます。そういった教育を受けた地元の美大出身者が、役所や企業に入り込む土壌ができれば、明確な方向性を持ったクリエイティブを行えるようになると思います。山形の芸工大が良い例かと思います。
・外へのネットワークの形成。
・もっといろんな人を訪ねて行くこと。
・宮城県美術館を改修するなり新しい試みの展示を行うなど。（県内在住の若手アーティストの展示を行うなど）メディアテークも企画の展覧会の数を増やしてほしい。（最近はコロナが理由で少なかったのか？）コロナが一番の原因であろうが、ここ最

近はほんとに見応えのある展覧会の数が少ないので、文化を摂取するために石巻や山形、東京などに行かざるを得ない、といった印象。
・仙台に芸術系の大学がないことが、文化芸術における人材や場所の流動性、世代間の交流が少ない一因だと思います。それを補うような、教育的な視点や、大学などとの連携でおこなう事業が増えると、今後につながる動きが生まれていくのではないでしょうか。
・もっと市民を信頼して、協働プロジェクトを展開したほうがいいと思います。「市民文化」を醸成するためには、プレイヤー側だけでなく、それを支える立場、受け入れる立場の市民の育成も必要だと考えます。受け入れる立場になった市民は、改めて自分が暮らす街に目を向けるようになり、その街の固有性に気づく機会になるのではないかと思います。文化芸術活動について、すべてお膳立てした状態で差し出し続ければ、市民文化は衰退し、提供する側だけが頑張る、単なるサービス業になってしまうのではないかと危惧しています。
・文化事業団内の連携が必要だと思います。現状では、それぞれの部署がこまごまと頑張っている印象です。一方で、仙台の文化芸術界を包括しているのも文化事業団であるわけなので、有益な連携が図られることで状況はかなり変わると思います。
・教育の中でも触れる機会が増え、文化芸術への愛着を持つことや抵抗感を減らす機会があっても良いと思います。
・住民以外の目線での印象になってしまいますが、地域内にプレイヤーが多くいて、それぞれが頑張って活動されているのだと思います。だからこそ、それぞれの活動を高めるためのサポートや相談役から、全体的な状況を変えていけるのではとも想像します。プレイヤーの需要に応じたサポートを充実させること（機材の貸出など助かる人は多いと思います。企画者対象のマネージメント講座的なものやマッチングなど）。 また、『つくる＜公共＞50 のコンセプト』（せんだいメディアテーク 編、2023）は多様な東北ごとの現状が知れる貴重な内容だと思います。このような取り組みの継続と発信（住民の人にも知ってほしい内容ばかりだと感じました）
・文化芸術に触れ、関わって初めて感動や気づきがうまれ、次のアクションに移る。そのアートやイベントを知る・触れる機会が訪れなければ、文化芸術の担い手も鑑賞や参加で関わるであろう側も「もったいない状況」で終わってしまう。やはり、今以上に、文化芸術に出会い・ふれあえる機会をより多くつくることからつぎのよき文化芸術状況が育まれるものと思う。既に取り組まれていると思われるが、多様な情報発信や垣根のない多様な人々の交流などわくわくする仕掛けを期待する。そうした交流のなかで化学変化が起き、市内のどこかで、既存施設にとらわれない、コアな担い手による持続的な文化芸術交流の場が自然発生的に生まれてきたら、そのとき、仙台の文化芸術の景色は一変しているかもしれない。
・大人も子供も教育。
・かつて河北新報やタウン誌が評論の場のような役割をわずかながら担っていたと思うのですが、そういったこともなくなり、いよいよ評論の存在が待たれます。評論家は仙台に来ないので、仙台で発表するということは評論されないことを覚悟しなければならず、評論されたければ東京で発表することになり、仙台で発表することの意味がなくなってしまいます。 県美はその辺りのことをほぼ放棄していますので、せんだいメディアテークに期待していまいます。
・子供に向けたアートノード的な education の機会を増やしていくべきだと思います。なぜなら、今後ますます「ターミナル」よりも「ノード」が重要な生き方を選ぶ必要性が出てくると思うからです。そういった感度がビンビンの仙台っ子たちを排出していってほしいです。
・仙台市民全員が感性や感受性や共感性を磨くこと。磨く機会を創出する事。
・予算の増額でしょうか。。お金が全てではないが、イベントの規模やコンテンツ、呼べるゲスト、広報物の質、広報の方法、協働する方々への謝礼など関わるもの、こと、人の質は変わってくると思う。私はご依頼を受けた案件は幸いにいつも興味関心があり、意義があることと感じているため楽しく協働させてもらっているが、県外のクリエイターにお金のことを予算の少なさにびっくりされる。（メディアテークで行われる企画は資金があると思われていることもありそう。メディアテークブランド）また作業内容に対する謝礼の低さに激怒したデザイナーがいたという話も聞いたことがあるため、そこまで間違った感覚ではないと思う。個人としては文化活動は豊かな生活になくてはならないものと感じるので、今よりも少しでも良くしたいという思いもあり今度も関わり続けたい。文化芸術とそれに関わる方々を守っていくためにも予算の増額があればハッピーになれると思う。

・仙台にも芸術大学が創設されれば良いのにと常々感じてはいますが、それはまた別問題であると思うので、まずは文化芸術に少しでも興味を持っている人はもちろん、持っていない人にも興味を持ってもらえるようなきっかけをつくることが必要ではないでしょうか。幅広い層の市民に、もっと身近なものであると認識してもらうべきだと感じます。そう思うのは、私自身アートや芸術というと縁遠い存在のように感じてしまい、なんかとっつきにくいなぁ、よくわからないなぁと思う気持ちを持ってしまっているからです。そんな私と同じような気持ちを持つ方々は、案外沢山いると思います。幼い・若い頃から自然な流れで文化芸術に触れ、リテラシーを持ち、興味を持つ人々が集まってくるような街になったら、より良くなるのではないかと感じています。

・抽象的な言い方になってしまうのですが、土着的なエネルギー、伝統や因習といったものに潜む原初的な志向を掬い取る、みたいな作業を通過しないと芸術の根は張っていけないのかな、などと考えたりします。教育の在り方は大事だと思います。

・1.気軽に平場で対話をする場。 2.文化芸術に関わる人が（メディアテークのスタッフふくめ）十分に生活が成り立つ収入があること。収入が得られる仕組み、制度。

・参加したくても参加出来ない人がいること、分からないからと考えること、見ることをあきらめてしまう人など、つくる側も育てる側も、見る側も皆それぞれの考えがあることを前提とした互いへの想像力と尊重を持った上での、自由に文化芸術に触れられる機会をどのように広げられるのかを常に考え、向かい合うこと。それに必要な仕組みづくりと人材の確保。

・文化芸術分野で顔の見える関係での活動が行われている印象で、とても良いことだとも思ったのですが、仙台で活動する人たちにとっては閉塞感と感じることもあるのでしょうか・・・。

・非アーティストが芸術に関わることのできる機会は広く提供されており、ワークショップの参加や発表機会があることは生涯学習的に恵まれているといえるだろう。しかしワークショップを行うにせよ展示・公演にせよ、専門的な技術や視点の提供、考察が行われなければ、仙台からアーティストを生み出すことには繋がらない。企画者は社会と接点のあるアーティストだけではなく、世界や日本における美術・音楽の先端をリサーチし、まだ言語化されない表現を受容することにより思考する場を生み出すべきである。参加の楽しい思い出を作るだけでなく、様々な表現に対して感じたことを言語化し、日々の暮らしや社会・政治への問いに繋げることで、文化的な生活の向上に繋がる。アーティストを目指す者だけではなく、一般の方にも本質的に役立つ体験になるだろう。

・市に対しては助成金などの支援をよりよくすることを希望します。またメディアテークさんにはアートシーンに対してもっと柔軟に、また足を使ったリサーチをすることを希望します。

・安定して運営できる経済的基盤。

**【参考】アートノード実施事業（2016～2023）**

- TALK（2016）:「川俣正のアートプロジェクト」／『岸野雄一の「地下鉄駅で聞く、踊る。」』／「ベルリンのアートシーン」／「破壊なくして創造なし」／「増え続けるゴミと格闘する」／「完全アナログ映像制作夜話」／「ベルリン、そしてヨーロッパの現場から － 芸術と社会の相関関係」／ Bar 映画館「わたしのスターを語る」／「どうぶつのことば 」／「身体と空間のレゾナンス」
- TALK（2017）:「ホーリー・マウンテンズ・ツアー」／「リボーン・アート・ダイアログ vol.3」／「ふたつの「father」／「台湾インディペンデントシーン、進化するリトルプレス」／「Chim↑Pom アフタースペクタクル」／ 「表現規制とユーモア」／「あそぶ、こども、あーと」／「作品がうまれるとき」／「村越としや× 村中修 自主ギャラリーと写真」／「バイオをハックする？」／「行動するアートとは何か？」／「鮫ヶ浦水曜日郵便局とその先」
- TALK（2018）:「翻訳家・柴田元幸の朗読＆トーク 『言葉の中へ』」／「Sounds of Diversity」／「これからの大人の部活動」／「Making Ways of Making」／「郷土芸能とまちづくり」／「デザインを伝えるということ」／「アートブックの編集とデザインの裏側」／『「コトのアート研究所」カフェトーク』
- TALK（2019）:「社会彫刻とクラフトジン」／「タイのアートスタジオの現在」／「Modern Sculpture を超えて」／「生きづらさを離脱する」／「なぞると、ずれる。」／『「つくる」を教える、「つくる」と向き合う』／「記録と記憶・語り始める風景」／「神楽って何ですか？」／「仙台の表現する場を哲学する」／「TALK Bio-diversity」
- TALK（2020）:「今、仕事場から考える。」／「コロナ禍における舞台芸術はどうだったのか・どうするのか」／「完成させる必要のないものづくり」／「秋田-岩手-仙台、地域における表現の場の実践」／「南極を知る」／「人権と芸術・問いかける私」／『光と時のドキュメント』／「Independent Bookstore Print Editions」／「宮城県文化関係者アンケートの結果から見えるもの」
- TALK（2021）:「中動態の映像学がはじまるまで」／「エンゲキは人をどう育むか」／「タフに在りつづける”たまり場”とは？」／「過去を視る 過去を想う」／「私とあなたの間をとりもつものの話」／「書き手と読み手をつなぐ、紙のちから」／「山小屋から見えてくる自然・建築・人間」／「アーティストの自立と社会参加 」／「５０年前の旅日記を読む」
- MEETING：10 × 貞山運河フォーラム 2023「創造する運河３」／ 09「せんだいクロッシング」／ 08「『ワケあり雑がみ部』活動振り返り会」／ 07「川俣 正『仙台インプログレス』2019 報告」／ 06「プロジェクト３年目のメンテナンス」／ 05「川俣 正《みんなの橋》プロジェクト 2018 報告」／ 04「仙台でアートの現場をつくる」／ 03「川俣正の《みんなの橋》プロジェクト」／ 02 「KOSUGE1-16 と『アッペトッペ』を振り返る」／ 01「てつがくカフェ『アートは心地よいもの？』」
- JOURNAL
- 仙台インプログレス（貞山運河小屋めぐり、新浜フットパスなど含む）
- ワケあり雑がみ部
- NISHINARI YOSHIO 写真展「最後のファッション」
- 青少年のための生きる技術としてのゲージツ学校
- 仙台商人プロジェクト
- アッペトッペ＝オガル・カタカナシ記念公園
- おりあいフェスタ
- 東北リサーチとアートセンター（TRAC）：立ち上がりの技術、語り野をゆけば／つくる手 さぐる手 かきわけて／とある窓／レコメン堂／やわつちサロン
- しらべの細道：萬次郎さんの仙台風景スケッチ、図解どうぶつもよう／進化する「野帳」／千年のしらべ／がけっぷちの防空壕／東北鉱山突入記
- インタビューズーズー
- せんだい資源ナーレ（仙台市環境局）
- テトラとリリック（仙台市環境局）